

1. 財政と社会の同時的危機

(1) 自己責任社会を映し出す社会保障財政の現状

- ① 給付：年金・医療・介護以外の極端な小ささ
- ② 負担：先細る租税負担、増嵩する社会保険料と自己負担
- ③ 「生活の場としての地域」を支えられない自治体財政

(2) 人を支えない日本型財政システムの生成と展開

- ① 自己責任主義の生活保障
- ② 経済成長を前提とする日本型分配システム
- ③ 財政危機の時代（「社会のための財政」から「財政のための社会」へ）

2. 自己責任社会を脱却し「共同の財布」を取り戻す

(1) 租税抵抗：国際比較が教えてくれること

- ① 軽い税負担に強く抵抗する日本の納税者
- ② 人を支えない財政は破綻する（「財源がないから社会保障抑制」の誤謬）
- ③ 「弱者救済」から「共通ニーズの充足」へ

(2) 「共同の財布」を皆で満たす

- ① 財源不足と社会保険主義・自己負担主義を乗り越える
- ② 税の負担をどうするか（公正な税制を考えるための視点）
- ③ 三つの増税否定論を退ける

3. 地域の「共同の財布」を満たす一分権改革から自治権の行使へ

(1) 税源移譲？地方交付税の充実？

(2) 義務付け・枠付けの緩和？

(3) 財政の自治—課税権を行使し地域から日本を変える

(4) フルセット主義を捨てて住民のニーズを満たす

4. 共通ニーズを満たす地域社会へ

(1) 「公」と「共」のポジティブ・サムを求めよ

(2) 信頼され、機能する自治体行政の条件

参考文献

「第5章 支え合いへの財政戦略—ニーズを満たし、財源制約を克服する」（高端正幸（宮本太郎編『転げ落ちない社会—困窮と孤立を防ぐ制度戦略』勁草書房、pp.161～pp.190, 2017年10月25日））